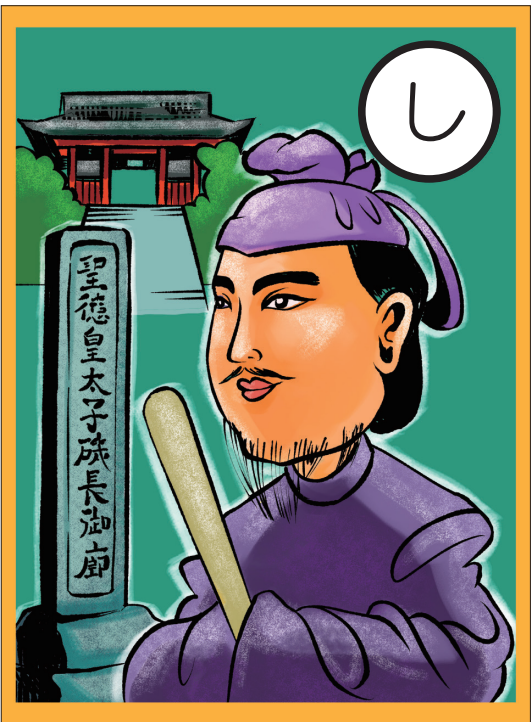




サヌカイト
たたくと音が
カンカンカン

④ 二上山付近で多く採れたサヌカイトは、石器時代から弥生時代にかけて利用されていた鉱物です。砕くと断面が鋭くなるため、矢じりや石器、刃物などを作るのに使われ、大変重宝されていました。とても固く、たたくと「カンカン」と高くきれいな音がすることから、カンカン石とも呼ばれています。



磯長廟
眠る偉人は
聖徳太子

① 聖徳太子は多様な分野においてその才覚を発揮し、日本の礎をつくったともいえる人物で、太子町の名前の由来ともなっています。世襲に促われず、個人の才能や功績に応じて位階が与えられる「冠位十二階」の制定や、道徳的な規範を示した、世界最古の憲法と言われる「十七条の憲法」など、数多くの実績を遺しています。御廟は叡福寺境内の北にあり、母と妃と共に葬られています。



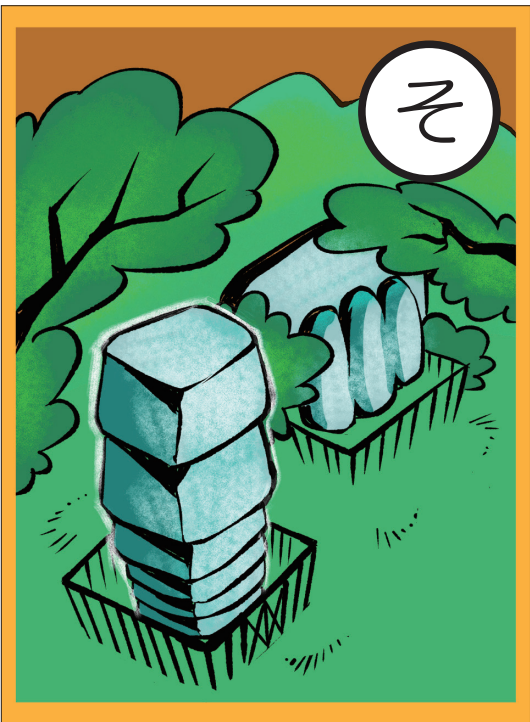
推古陵
眠る女は
最初の女帝

⑤ 第33代天皇の推古天皇は、日本で初めての女帝となった人物です。聖徳太子を摂政に登用し、大陸の隋から文化や芸術などを積極的に吸収し、飛鳥文化を花開かせました。推古天皇陵は1辺約60メートル、高さ約11メートルの方墳で、内部には2つの横穴式石室があると考えられ、子である竹田皇子も一緒に埋葬されていると言われています。



静寂の
万葉の森
岩屋跡

⑥ 二上山ふもとの万葉の森を進むと、静かに佇む岩屋があります。岩屋とは、奈良時代に造られた大小2つの石窟から成る石窟寺院で、中央部に三重の石塔があり、北壁には三体の仏像が彫りこまれています。大きい方の石窟は幅7メートル、高さ6メートルにも及びます。鹿谷寺と共に、日本で唯一の大陸風の石窟寺院ですが、文献に記録がなく、どのような氏族が造営に関わったのかも分からない、謎の多い寺跡です。



そびえたつ
十三重の塔
鹿谷寺

⑦ 奈良時代に二上山の中腹に造られた鹿谷寺跡は、凝灰岩の岩盤を彫り込んで造られた大陸風の石窟寺院です。寺院の中心部には高さ5メートルあまりの十三重の石塔と三尊仏座像を線彫りした石窟が残っています。また、かつてこの周辺から日本最古の貨幣と言われる「和同開珎」が出土しています。